

五戸総合病院での研修を終えて

大阪市立大学医学部研修医
雨皿 和輝

こんにちは。大阪市立大学医学部研修医の雨皿和輝と申します。令和元年6月1日から6月30日まで五戸総合病院で外科を研修させていただきました。飛行機に乗り、バスや電車を乗り継いで八戸までたどり着きました。八戸からはタクシーで五戸町まで行ったのですが、まずそこで驚きがひとつさっそくありました。タクシーの運転手さんが笑顔でたくさん話しかけてくれたことです。大阪でこんな方は見たことありません。青森についた初日、少し緊張もしている中話しかけてくださり、五戸の方のあたたかさに触れた瞬間でした。

外科研修では手術に入ることはもちろん、たくさんいる入院患者の回診や、検査・処置などを先生とともに行いました。それに加えて、訪問診療、学校検診、検診センターでのマンモグラフィーや胸部レントゲンの読影も行いました。

手術では消化器系の手術や、乳がん、子宮全摘や帝王切開まで入らせていただきました。これまで入っていた手術では鉤引きがメインでしたが、糸結びや結紮をさせていただきました。最初はうまくいかなかったのですが、安藤先生や小林先生の指導のおかげで徐々に慣れていくことができました。

訪問診察では、特別養護老人ホームや自宅への訪問診察へ伺いました。研修医ではこのような経験はなかなかすることができないため、とても新鮮でした。寝たきりのおじいちゃんおばあちゃんのところへ行って、話を聞いたり聴診をしたり必要に応じて内服薬の調整をしたり、地域密着の医療だなと感じました。定期的に病院へ通院することが難しい方ばかりでしたので、こうやって医師が出向いて診察をすることがいかに大事なことが痛感しました。また、ご高齢の方が多くて驚きました。90歳を超える方はほとんどみたことがありません。しかし、五戸にはそんな方が多くいました。自分で動けないにしても元気に毎日過ごされていました。それも医師が訪問診察を定期的に行っているからこそだと思います。短い時間の簡単な診察ですが、そういった方にとってはかけがえのない医療なのだと感じました。

検診センターではマンモグラフィーやレントゲンなどの読影をさせていただきました。毎日画像をみている検査技師さんはやはり画像についての知識は豊富です。普段そういう技師さんと話したり教えていただいたりする機会はあまりないので楽しかったです。

業務だけでなくプライベートも充実した一ヶ月でした。青森といえば郷土料理。まぐろ、馬肉、シャモロック、お寿司、などなどあげるときりがないほどおいしい料理をたくさんいただきました。おかげで青森に来る前と比べ2kg近く体重が増えてしまいました。身も心も成長した地域研修となりました。

地域研修として五戸総合病院で得た経験は一生モノです。ここで得たものを糧に今後の医師としての仕事に生かしていきたいと思います。